

第6回創薬・先端医療ワーキンググループ 議事要旨

■日時：令和8年4月24日(金) 10時00分～11時00分

■場所：中央合同庁舎第4号館 1214会議室（ハイブリット開催）

■出席者：

構成員

（有識者）

五十嵐 啓朗 ファイザー株式会社代表取締役社長

熊ノ郷 淳 国立大学法人大阪大学総長

志鷹 義嗣 株式会社 RealizeEdge Partners 代表取締役社長

藤本 利夫 アイパークインスティテュート株式会社代表取締役社長

本田 麻由美 読売新聞東京本社編集局編集委員

牧 兼充 早稲田大学大学院経営管理研究科准教授

宮柱 明日香 武田薬品工業株式会社ジャパンファーマビジネスユニットプレジデント

山本 武 元富士フイルム株式会社執行役員ライフサイエンス戦略本部副本部長

バイオサイエンス&エンジニアリング研究所長

吉川 真由 ARCH Venture Partners ベンチャーパートナー

（政府関係者）

山田 賢司 経済産業省副大臣

小林 茂樹 文部科学副大臣

代理出席

上仮屋 尚 デジタル庁国民向けサービスグループ審議官

川端 輝彦 厚生労働省医政局医薬産業振興・医療情報企画課創薬支援対策室長

オブザーバー

藤原 康弘 独立行政法人医薬品医療機器総合機構理事長

中釜 斉 国立研究開発法人日本医療研究開発機構理事長

参考人

畠 賢一郎 株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング相談役

事務局

内山 博之 内閣府健康・医療戦略推進事務局長

■議事：

1. 開会

2. 議事

（1）官民投資ロードマップについて【非公開】

（2）その他

3. 閉会

○内山健康・医療戦略推進事務局長 ただいまより、第6回「創薬・先端医療ワーキンググループ」を開催いたします。事務局として議事進行を務めます、内閣府健康・医療戦略推進事務局長の内山です。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

本会議は、オンライン併用での開催となっております。

また、本日は官民投資ロードマップについての御議論を行いますので、非公開での開催となります。よろしくお願いいたします。

本日、共同座長の小野田科学技術政策担当大臣、松本デジタル大臣は、それぞれ国会での公務のため御欠席となります。

それでは、早速議事を始めさせていただきます。議事1では、資料1官民投資ロードマップ及び資料2参考資料集について、事務局より御説明をさせていただきます。

資料1は、官民投資ロードマップの素案となっております。本ワーキンググループでは、ファーストインクラス製品・ベストインクラス製品、感染症対応製品、バイオ医薬品・再生医療等製品等、革新デバイスを活用した先端医療、ライフログデータ等を活用したヘルス関連サービスといった5つを主要な製品・技術として官民投資ロードマップを作成することとし、その議論をしてきていただきました。このうちバイオ医薬品・再生医療等製品等については、合成生物学・バイオワーキンググループとの協力の下で作業を進めてきたところでございます。

資料2は、本ワーキンググループで、皆様からいただいた御意見を参考資料としてまとめさせていただきます。

本参考資料は、官民投資ロードマップの公表時期と併せて創薬・先端医療ワーキンググループのホームページに掲載をして公表する予定です。

(質疑応答後、構成員・有識者から順次ご発言)

○内山健康・医療戦略推進事務局長 ありがとうございます。この官民投資ロードマップ及び参考資料につきましては、本日いただいた意見も含めまして、必要な修正は座長一任とさせていただければと思います。

(異議なし)

それでは、これよりプレスに入らせていただきます。

(報道関係者入室)

○内山健康・医療戦略推進事務局長 各省庁から御発言をいただきます。まず、文部科学省・小林副大臣、よろしくお願いいたします。

○小林文部科学副大臣 文部科学省でございます。これまでの皆様方の熱心な御議論、心から敬意を表します。ありがとうございました。

文部科学省は研究開発と人材育成を担当しているということでございますので、責任を持ってこれを実行してまいりたいと思っております。決意表明であります。以下、具体的に申し上げてまいります。3点であります。

まず第1に、継続的な基礎研究力の充実と橋渡しの強化であります。ノーベル賞を受賞した制御性T細胞等の免疫研究や次世代iPS細胞の開発など、日本の強みを生かした基礎研究への支援を強化し、実用化につなげることで、創薬シーズの継続的な創出に取り組んでまいります。

第2に、危機管理投資としての研究開発であります。感染症有事に我が国の社会経済活動への影響を最小限にするために、平時からワクチン、治療薬、診断薬の感染症危機対応医薬品等の基礎研究を強化してまいります。

第3に、創薬・先端医療を支える環境整備でございます。大学病院の研究環境や経営基盤の強化、AI時代のデータ基盤構築など、国際的な開発競争に不可欠な環境整備を進めてまいります。さらに、研究開発から医薬品製造に至るまで、創薬人材の育成に向けて大学等の教育プログラムの充実に取り組んでまいります。文部科学省としては、アカデミアが研究開発と人材育成の両面で中核的役割を果たせるように、これからも現場の声に丁寧に耳を傾けながら必要な環境整備に取り組んでまいります。

引き続き皆様方の御協力をよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

以上です。

○内山健康・医療戦略推進事務局長 ありがとうございました。

続きまして、厚生労働省・仁木副大臣ですけれども、本日は公務で御欠席のため、預かっております御発言を代読させていただきます。

○川端医薬産業振興・医療情報企画課創薬支援対策室室長 代読いたします。

厚生労働副大臣の仁木博文でございます。これまでの本ワーキンググループにおける議論を通じて、創薬・先端医療は日本経済をさらに力強く発展させていく成長産業という観点でも、また、国民の皆様の健康と生活を守る基幹産業という観点でも、非常に重要な分野であると改めて感じております。

創薬については、創薬エコシステムの発展に向けてスタートアップ支援や研究開発の推進、治験・臨床研究の環境整備、薬事政策の面などから、日本発の革新的なシーズが実用化につながるよう総合的に取り組んでまいります。

また、創薬力強化のためには、創薬支援や製造を担う人材の育成・確保についてさらなる対応が必要であり、この点については戦略的に今後取り組んでまいります。

また、我が国に投資を呼び込むに当たっては、市場の魅力向上が必要です。薬価もそのための重要な要素の一つであり、日本市場において革新的医薬品が開発・上市され、ドラッグラグ・ドラッグロスの解消が進むよう、革新的新薬のイノベーションのさらなる評価については引き続き検討を行ってまいります。

加えて、危機管理投資の観点からも、医薬品の安定供給をより一層図っていくとともに、感染症有事に備え、今年3月24日に閣議決定されたMCM戦略を踏まえつつ、平時から感染症対応医薬品の研究開発の推進、国内生産体制の整備や維持に着実に取り組んでまいります。

先端医療に関しては、医療機器の産業基盤の強化、イノベーションの創出、安定供給体

制の強化を基本方針として必要な取組を進めていくとともに、ヘルスケア分野における予防・健康づくりの加速に取り組んでまいります。

創薬・先端医療いずれの分野においても、DXやデータの利活用、AIなどの最先端技術の活用をより一層進めてまいります。これらの医療分野におけるイノベーションの推進や医薬品等に関する安全保障の確保などの論点については、高市総理も必要な取組を進めるよう強くおっしゃっています。厚生労働省としては本ワーキンググループで皆様からいただいた御意見を十分に踏まえ、創薬・先端医療分野における取組を力強く推進してまいります。

代読いたしました。

○内山健康・医療戦略推進事務局長 ありがとうございます。

続きまして、経済産業省・山田副大臣、よろしく願いいたします。

○山田経済産業副大臣 経済産業副大臣の山田賢司でございます。

構成員の皆様方の幅広い観点からの精力的な御議論をいただいたことに改めて感謝を申し上げます。

複数の先生方から取りまとめについて御評価をいただいた上で、大事なことは実行であると、また、フォローアップをしっかりとやっていくということを御指摘いただきました。これはしっかりと受け止めたいと思います。

私からは、創薬分野、先端医療分野のそれぞれについて発言をさせていただきます。

まず創薬分野につきましても、バイオ医薬品及び再生医療等製品における国内シーズ等からの創薬の担い手たるベンチャーの創出、成長に必要な資金、人材等の円滑な供給、早期の海外進出を促進してまいります。また、開発や製造を専門的に担う事業者の強化にも引き続き取り組んでまいります。これらを通じ、強力な日本型創薬ベンチャーエコシステムの形成と機能強化を目指してまいります。

先端医療分野につきましても、医療機器について、スタートアップ等が開発の具体化を行い、大企業等の販路、ノウハウを活用して、米国をはじめとする世界市場に実装していくことができるエコシステムの構築を目指してまいります。

また、ヘルスケアについて、企業、保険者からの予防・健康投資を倍増させるとの政府目標案を実現すべく、需給両面から対策を総動員してまいります。需要面では企業、保険者の健康投資に対するインセンティブを強化し、供給面では質の高い効果的なヘルスケアサービスの創出を推進してまいります。引き続き関係省庁の皆様とも連携をしながら、創薬・先端医療分野の取組を力強く進めてまいります。

改めて先生方の御協力に感謝を申し上げます。ありがとうございます。

○内山健康・医療戦略推進事務局長 ありがとうございます。

本日、官民投資ロードマップの策定に向けて、創薬・先端医療医療ワーキンググループは最終回の予定となっておりますが、先ほど申し上げたとおり、共同座長の松本デジタル大臣、小野田科学技術政策担当大臣とともに今、国会用務で本日欠席となっております

ので、それぞれ御挨拶を代読させていただきます。

まず、松本デジタル大臣、よろしくお願ひいたします。

○上仮屋デジタル庁国民向けサービスグループ審議官 それでは、代読をさせていただきます。

創薬・先端医療ワーキンググループの共同議長を務めております、デジタル庁大臣の松本尚です。本日は皆様、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

私は医師としてもこの創薬・先端医療ワーキンググループにも大変高い関心を持って関わらせていただきました。特に先端医療については未来の新しい医療、例えば診断から治療までをAIが全て行う病院をつくることなどは、我が国の成長戦略にふさわしい目標と考えています。

さて、皆様に御意見を取りまとめたいただいた官民投資ロードマップにおいては、心臓、肺、肝臓等の機能を代替する機器等の安定供給を確保すること、イノベーションコア拠点の強化、ラピッドプロトタイピング環境を構築し、AI技術を活用した製品やオルガノイド等の革新的デバイスや技術を社会実装する、また、マイナポータルなどのデータ基盤やセンシング技術を活用し、ライフログデータを基に予防・健康づくりの効果に係るエビデンスを構築するといった大きな方向性が盛り込まれたと思います。これまで丁寧に御議論を重ねてくださった民間有識者の皆様に御礼を申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

以上でございます。

○内山健康・医療戦略推進事務局長 続きまして、小野田大臣の挨拶を代読させていただきます。

本日は御多忙のところ、御出席を賜り誠にありがとうございます。閉会に当たり、創薬・先端医療ワーキンググループの共同座長として一言御挨拶申し上げます。

まず、有識者の皆様におかれましては、6回にわたる精力的な御議論を経て、本日、このように創薬・先端医療分野における官民投資ロードマップに関する御意見を取りまとめていただきましたことを厚く御礼申し上げます。

創薬・先端医療分野は、国民の皆様の健康に直結し、経済活動を支えるものです。今回、健康医療安全保障の観点で、感染症などに関するサプライチェーン強靱化の道筋をつけることができました。政府といたしましても、内外からの投資を我が国に呼び込むとともに、患者アクセスの改善に向けて、我が国の医薬品市場の魅力向上を目指して取組を推進してまいります。

今回の官民投資ロードマップを踏まえ、「創薬力向上のための官民協議会」などの取組を通じて、今後、日本への更なる投資が行われることを期待しております。この官民投資ロードマップを呼び水として、この機運の中で、民間からも日本への投資をいち早く決定いただき、速やかにその旨を表明していただくことをお願いしたいと思っております。そして、日本が有する優れた創薬力を土台として、製薬産業が持続的な成長の牽引役となるよう、官民を挙げて取り組むことが重要と考えております。

医薬品、医療機器、ヘルスケア分野の取組が国民・患者の皆様の健康と生活に貢献し、日本経済のさらなる発展につながることを祈念して、私からの挨拶とさせていただきます。以上でございます。

それでは、これをもちまして、第6回の「創薬・先端医療ワーキンググループ」を終了させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。